

被害者と加害者の立ち直りを願って

松戸市金ケ作に事務所を置くNPO法人対話の会は、犯罪という悲惨な出来事によって「生きづらさ」を抱えてしまった被害者と加害者がそれぞれ立ち直り新たな一歩を踏み出せるよう、「対話」という手法を使って両者の関係を修復する活動をしています。

被害者は、犯罪そのものだけでも深く傷つきますが、その後加害者から謝罪もつぐないも無いとなれば、ますます傷を深め人間不信にさえ陥ってしまいます。被害者がよく言うのは、「被害を受けた時に私の時計は止まってしまった」ということです。そこから一歩も踏み出せず、それまで親しかった人たちからも孤立してしまったりします。

他方、加害者が犯罪をおかすについては、子どもの頃から虐待を受けてきたとか、周囲からの暖かい支援がまったく受けられなかったとか、様々な成育過程での困難を抱えてき

た事情があるものです。生まれながらの悪人など、決していないのです。また、今の刑事司法では、加害者が被害者の具体的被害の実情を知るすべが、ほとんどありません。たとえば1万円入りのバックを引ったくった加害者は、自分が犯した罪について「法を犯したから罰せられた」とか「1万円の犯罪だ」としか思わないのです。実際には、被害者の心を傷つけ人生を変えてしまっているにもかかわらずです。これでは、心からの反省や人間としての被害に対する心からの謝罪は生まれず、真の更生もできません。

NPO法人対話の会では、スタッフが両者の間に入って十分な面談を重ねた後、被害者と加害者が直接会って話す「対話の会」を開きます。スタッフの司会のもと、第一段階で互いの体験を十分に話し、第二段階で質問したり答えたりし、第三段階でこれからどうするかを話し合います。

あるバイク窃盗事件では、加害少年が、被害少年にとってこのバイクは引きこもりから救ってくれた親友のような物だったことを聞いて、心からの反省に至りました。

別の引ったくり事件では、足に障害のある被害者が「加害者は私に障害があるから狙ったに違いない」と思い込み、屈辱感をぬぐえずにいましたが、加害者が障害にはまった

気づいていなかったことを聞いて、屈辱感から解放されました。
こんな風に対話の会は、事実と体験を率直に話し合うことで、それまで互いの情報が無かったことによって苦しみや無反省に陥ってしまったっていた被害者と加害者の距離を縮め、双方が新たな一歩を踏み出すお手伝いをする事ができるのです。

「連絡先」

山田由紀子
住所 松戸市金ケ作3000-9
ホームページ <http://www.taiwanokai.org/>
TEL 090-1770-110954
メール y.yamadada@flamenco.plala.or.jp

発行：松戸市民ネットワーク
「松戸で生きたい私たち」

連絡先：松戸市松戸 1879-24 ほくとビル5F
昼間 047-360-6064
夜間 047-345-7719(吉野)
発行責任者：小林孝信
発行部数：600部(毎月1回1日発行)
価格：1部200円/年間2,000円
郵便振替口座：00190-2-550953
(名義：吉野信次)

チラシ同封をご希望の方は、毎月20日までにお送りください(500円)。但し、希望の多い時は同封できないこともありますのでご了承ください。



No. 366

忘民 政箔 奮起 常道

- ・罰則で ウイルス退治 する愚策
- ・ネットカフェ 難民籠る 日本地図
- ・ウイルスを 撃ちてし止まん 五輪戦
- ・検察が 上塗りをする 嘘の壁
- ・巣ごもりの 巣で爪を研ぐ 方丈記
- ・乱起こす 路地でサンマを 焼きながら

齋藤明男

(落書二十二号より)

〈特集〉「3.11」から10年、原発ゼロ社会をめざす！

・10年、変わったこと・変えるべきこと (小林孝信)	2~3
・被害者への全面補償と東電の刑事責任を求めて (武藤類子)	4~5
・「トモダチ作戦」に見る隠された放射能被害 (吉田くるみ)	5~6
・東海第二原発へのキャラバン行動に参加し、多くの市民に伝えよう！ (武笠紀子)	6~8
・再処理ストップで、再エネ社会を目指そう (山田清彦)	8~9
・10年の軌跡~二つの被曝地「福島と松戸」から (香取直孝)	10
グループ紹介(348) NPO法人対話の会	12

一〇年と一〇万年

「一〇年ひと昔」で、誕生したばかりの子どもたちが今や小学校の高学年になります。それを振り返る際に、その一万倍もの時間も思い起こしたいものです。原発問題に関心のある方はお気づきでしょう。これは再処理による放射性廃棄物が人体に無害になるに必要な時間といわれます(その数倍との説も)。

原発問題とは爆発事故に留まるものではありません。子々孫々に今の世代の欲望が発生させた害毒の押し付けは倫理的に許されません。今、一部電力会社はそれを青森県に押し付けようとしています。地震列島で再処理後の地下保管は危険です。再処理なしの電力会社での乾式保管が唯一の道でしょう。

以前、青森での新原発や再処理工場建設反対行動に参加後、三内丸山遺跡を見学しました。深い遺跡の底に「五千年前」の説明版がみえました。縄文時代から実に長い時間、先祖は必死で命と生活をつないできたのです。その瞬間、一〇万年の重さに身が硬くなりました。原発存続とは子孫だけになく先祖への冒瀆でもあると知ったのでした。

(小)